

- * 「この方において私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。」 (エペソ 1 : 7)
キリスト教の「救い」は罪からの開放である。具体的には「罪が赦されること」「聖められていくこと」「神の子とされ、御国を継ぐ者とされること」という神からの祝福を受けることである。
- * 「罪」とは神から離れること。私たちはアダムとエバの子孫として、意識的にも、無意識的にも罪をおかす存在として造られた。一般の法廷では犯した罪に対して罰があるように、神に対しておかした罪には神は怒りを覚え、放っては置かれぬ。「罪から来る報酬は死です。」 (ローマ 6 : 23) とあるように、本来ならば私たちの罪は死に値する罰を受けるはずである。肉体に死が免れないように、霊魂の死、すなわち神から永遠に離れたままの人間となってしまったのである。
- * 私たちは、自分の力ではどうしてもこの罪の奴隷状態から抜け出すことができない。そこで、神は御子イエス・キリストを送ってくださり、十字架につけて私たちの罪を肩代わりして罰を受けてくださったのである。この事実を信じて受け入れれば私たちの罪は赦され、救われるのである。
- * 私たちの罪が赦されるため神がとられた方法は「キリストの血による贖い」であった。「贖う」とは旧約聖書では、一つは「身代金を払って他人の手に渡った奴隷や土地財産を買い戻す」という意味で用いられている。奴隷状態であったイスラエルの民を神は自分の許に再び置いた。また、その祝福を記憶するために、礼拝で動物を犠牲としてささげて罪の償いをするという意味もあった。動物の血を祭壇に注ぎかけたが、血はいのちを表すので、この行為により動物のいのちと引き換えに自分の罪が赦されていのちを得ることができたのである。これを受け継いで新約ではイエス・キリストが私たちの身代わりになって十字架で血を流して死に、信じる者の罪を赦して解放し、いのちを下させてくださったのである。
- * 「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、
ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」 (ローマ 3 : 23 ~ 24) 私たちは本来神の恵みを受けるに値しないものであるが、神の一方的な恵みによって私たちが何かをしなくても「義とされる」すなわち、無罪と宣言され、罪が赦されるのである。この大きな祝福に感謝して歩みたい。